

# はばたけ

第7号  
 発行責任者 中山全央  
 本誌発行所 沼田出版部  
 発行日 昭一〇・一〇・一〇

私達は  
 陸奥省の地城の人々と共に  
 いきまきと生活していきな  
 り村づくりに努めます。

## 現地で G. D. MORNING

中山全央  
 袖を拂はば自ら芽を欲し、光と雨の下よ  
 り喜しく成長し始まる。雑草と作物  
 との争いがここに始まる。作物は耕作  
 して分けへたでなく生育  
 して来る。ここに土  
 に求めるものすべに  
 至事が約束されていると  
 思つ。そうした視点を畑づくりに考える  
 と、現状は激しい一語である。本一に  
 草取りがある。雑草は手も扱ければあつ  
 と言ふ間にびつてし、又、肥土になれ  
 き、加害度的に益を、生産性を求めると  
 さらには受人な土地が豊になる。次に扱

## 陸奥農業特集

稲刈、取捨がある。自然環境の影響はあ  
 るが、戦後には稲刈に防がないと商品に  
 はならない。倉庫には倉庫を付加価値  
 を上げると言う意見があるが、それを現  
 在の物と何なるには、そうした作物を理  
 解してくる人々の組織、流通販路作り  
 不可欠である。こうし

雲霞、取捨がある。自然環境の影響はあ  
 るが、戦後には稲刈に防がないと商品に  
 はならない。倉庫には倉庫を付加価値  
 を上げると言う意見があるが、それを現  
 在の物と何なるには、そうした作物を理  
 解してくる人々の組織、流通販路作り  
 不可欠である。こうし

## 陸奥農業特集

雲霞、取捨がある。自然環境の影響はあ  
 るが、戦後には稲刈に防がないと商品に  
 はならない。倉庫には倉庫を付加価値  
 を上げると言う意見があるが、それを現  
 在の物と何なるには、そうした作物を理  
 解してくる人々の組織、流通販路作り  
 不可欠である。こうし

北海道のユカイを  
 夏川ありあけな  
 ます。

## 陸奥の村づくり 白沢 守男

② 其の共同を築く  
 まず、地城に「土着」して、「地城の  
 人々」との共感・共同を築いていくと  
 ついて考えてみましょう。

かつて、村には、お互いによく知り合  
 った人間関係があり、そこから育つ共  
 の方がありました。古い共同は、生  
 産と村の秩序維持の中心に、そうし  
 置いているのです。しかし、反面、個  
 個人の職能をこなされ、社会性の欠  
 損（大きな社会問題への共通心・共  
 同性）を、さがしたいことでした。

それから、古い共同をそのま  
 までせるのでなく、個人を、独立し  
 った人格として認めながら、お互いに知  
 り合ふ人間関係から育つ共感の力を

② 其の共同を築く  
 まず、地城に「土着」して、「地城の  
 人々」との共感・共同を築いていくと  
 ついて考えてみましょう。

かつて、村には、お互いによく知り合  
 った人間関係があり、そこから育つ共  
 の方がありました。古い共同は、生  
 産と村の秩序維持の中心に、そうし  
 置いているのです。しかし、反面、個  
 個人の職能をこなされ、社会性の欠  
 損（大きな社会問題への共通心・共  
 同性）を、さがしたいことでした。

それから、古い共同をそのま  
 までせるのでなく、個人を、独立し  
 った人格として認めながら、お互いに知  
 り合ふ人間関係から育つ共感の力を

それから、古い共同をそのま  
 までせるのでなく、個人を、独立し  
 った人格として認めながら、お互いに知  
 り合ふ人間関係から育つ共感の力を

「私」は、今、豊かなことではありませ  
 ん。五月を入れたばジュースがあるのと  
 は誤かまうのです。  
 「いやー、草とに同じだね」「包足は  
 わけなく誰にもまひがし、」「白  
 しろ、その中から、確かに、共感・  
 共同は育つていくのだから」という予感  
 がありました。

「私」は、今、豊かなことではありませ  
 ん。五月を入れたばジュースがあるのと  
 は誤かまうのです。  
 「いやー、草とに同じだね」「包足は  
 わけなく誰にもまひがし、」「白  
 しろ、その中から、確かに、共感・  
 共同は育つていくのだから」という予感  
 がありました。

「私」は、今、豊かなことではありませ  
 ん。五月を入れたばジュースがあるのと  
 は誤かまうのです。  
 「いやー、草とに同じだね」「包足は  
 わけなく誰にもまひがし、」「白  
 しろ、その中から、確かに、共感・  
 共同は育つていくのだから」という予感  
 がありました。

「私」は、今、豊かなことではありませ  
 ん。五月を入れたばジュースがあるのと  
 は誤かまうのです。  
 「いやー、草とに同じだね」「包足は  
 わけなく誰にもまひがし、」「白  
 しろ、その中から、確かに、共感・  
 共同は育つていくのだから」という予感  
 がありました。

「私」は、今、豊かなことではありませ  
 ん。五月を入れたばジュースがあるのと  
 は誤かまうのです。  
 「いやー、草とに同じだね」「包足は  
 わけなく誰にもまひがし、」「白  
 しろ、その中から、確かに、共感・  
 共同は育つていくのだから」という予感  
 がありました。

「私」は、今、豊かなことではありませ  
 ん。五月を入れたばジュースがあるのと  
 は誤かまうのです。  
 「いやー、草とに同じだね」「包足は  
 わけなく誰にもまひがし、」「白  
 しろ、その中から、確かに、共感・  
 共同は育つていくのだから」という予感  
 がありました。

「私」は、今、豊かなことではありませ  
 ん。五月を入れたばジュースがあるのと  
 は誤かまうのです。  
 「いやー、草とに同じだね」「包足は  
 わけなく誰にもまひがし、」「白  
 しろ、その中から、確かに、共感・  
 共同は育つていくのだから」という予感  
 がありました。

「私」は、今、豊かなことではありませ  
 ん。五月を入れたばジュースがあるのと  
 は誤かまうのです。  
 「いやー、草とに同じだね」「包足は  
 わけなく誰にもまひがし、」「白  
 しろ、その中から、確かに、共感・  
 共同は育つていくのだから」という予感  
 がありました。

